

<新市庁舎整備に関する意見>

新市庁舎整備について、「新市庁舎構想検討会議」報告書(R4.2)等を参考に意見交換を行った。

本懇話会は、一つの結論を導き出すことはせず、相反する意見についても今後の議論の視点となるよう意見書に整理している。

(1) 新市庁舎整備の必要性

現市庁舎が抱える課題の解決や機能充実に向けて、新市庁舎の整備が必要。

- 障がい者等の視点から現市庁舎は使いにくく、新市庁舎の整備が必要。
- 現市庁舎の課題解決や新しい機能の実現のため、新市庁舎の整備が必要。

(2) 新市庁舎に必要な機能

新市庁舎に必要な機能に関する意見

◆ 新たな価値を生み出す庁舎

- 市の賑わいをリードする機能について検討されたい。
- 安心安全で、誰もが集いやすいといった市庁舎の役割を大切に。

◆ 「盛岡のシンボル」となる庁舎

- 市民の交流の場になるなど、シンボリックな位置付けになる新たな機能を。
- 盛岡らしい景観と調和した、多くの人々が共感できるデザインに。

◆ 防災拠点となる安全な庁舎

- 災害に強い誰もが安心して利用できる庁舎を目指すべき。
- 他機関との連携が必要。また、耐震などの点で低層の庁舎を検討されたい。

◆ 次世代の執務環境

- DX推進計画の成果を高いレベルとし、新市庁舎に引き継ぐことが重要。
- 仕事の仕方が変わっても、新しい機能に備えた可変性や多様性が必要。

◆ 環境に優しい庁舎

- 省エネ、再生エネルギーの導入とデザイン性とのバランスが重要。
- 温室効果ガス削減のため、木造やCLT(直行集成板)を検討されたい。

(3) 新市庁舎の規模

部署の集約やデジタル化の影響など新市庁舎の規模に関する意見

- 効率化の観点から、基幹的な部署は、新市庁舎に集約するべき。
- 人口減少やDX等将来を見据えた「規模の最適化」を検討されたい。
- デジタル技術の進歩に対応できるよう、幅を持たせた規模の検討が必要。

(4) 新市庁舎の整備方法

現地建替よりも移転新築が望ましい。

- 財政負担の軽減のみではなく、新たな価値を生み出すという観点が必要。
- 新市庁舎の整備は、まちづくりの観点から都市再生としての検討が必要。

(5) 事業手法と資金計画

コストダウンや財政負担軽減など事業手法と資金計画に関する意見

- 可能な限りコストダウンにつながる手法を検討されたい。
- 必要な機能の導入と財政負担のバランスを検討されたい。
- 財政的な持続可能性について、市民に丁寧な説明が必要。

(6) 新市庁舎の整備エリア

整備エリア決定までのプロセスや評価方法に関する意見

- 3つのエリアを中心に、広く意見を聴きながら決定するべき。
- 整備の基本方針を策定の上、方針に基づいた統一の評価軸を設定するべき。

評価の視点

【都市政策の視点】

- ・市のまちづくりに関する計画との関連性から比較検討を。
- ・まちづくりの将来ビジョンを踏まえた評価を。

【防災・災害対策の視点】

- ・避難等のため浸水区域外が望ましい。
- ・防災拠点機能が、浸水によって損なわれないように。
- ・防災機能の課題は技術的に対応可能。

【交通アクセスの視点】

- ・各エリアについて、比較評価できるデータが必要。
- ・駐車場整備や高速道路からのアクセスについて比較検討を。

【その他】

- ・歴史ある盛岡をイメージできること。
- ・他の自治体の検討事例を参考のこと。
- ・評価軸により比較評価する際は、多面的な視点で評価する必要がある。

(7) 現市庁舎の跡地活用

市庁舎が移転した場合の現市庁舎の跡地活用に関する意見

- 景観を生かしながら市民が必要とする機能を持つ活用方法を検討されたい。
- 他のまちづくり計画との整合性や調和を図り、保全・活用を検討されたい。

(8) 今後の進め方

新市庁舎整備に当たっての進め方に関する意見

- 広く市民の意見を聴き、プロセスや根拠を説明し、理解を得る必要がある。
- 意見は、新市庁舎整備を待たずに対応できることは対応するべき。